

教えない教え方：理論的背景

2019年3月2日(土)

日本英語教育学会・日本教育言語学会
第49回年次研究集会 早稲田大学8号館

細川 英雄

早稲田大学名誉教授

言語文化教育研究所八ヶ岳アカデミア



<http://www.gbki.org/>

本日の構成

- 1 「教えない」とは何か
 - 2 言語教育の推移と考え方
 - 3 「教えない」ことの意味
 - 4 社会的行為主体としての活動のあり方
-

1 「教えない」とは何か

- 「教えない」という発想はなぜ起こったか
- 古川さとし(1991)・倉地暁美(1992)・田中望(1996)・細川英雄(1998)。。。決められた学習項目を決められた手順で教えることへの批判的立場
- 本来、教えることは、教師の手の内を見せないものだった—山口喜一郎・長沼直兄・木村宗男の直接問答法

2 言語教育の推移と考え方

年代	傾向	目的	考え方	立場	呼称
1960年代	構造言語学的	「何を」言語知識	言語知識向上 パターン・プラクティス	教師主導	文型積み上げ
1970・80年代	応用言語学的	「どのように」言語スキル	コミュニカティブ・アプローチ コミュニケーション能力向上／育成	学習者中心 (正解あり)	スキル重視
1990年代以降	社会構成主義的	「なぜ」人間形成	社会的行為主体 社会参加／市民性形成	学習者主体 (正解なし)	内容重視 活動型 言語文化教育

3 「教えない」ことの意味

- 田中望(1996)の主張から
- 地域日本語教育における日本語学習への疑問
—「抑圧者の言語としての日本語」
- 「言語を教えることを中心とする日本語教育は好ましくない」—日本語を教えない日本語教育：言語に依存しないコミュニケーションスペース
- 黒人女性のパッチワーク・キルト作りの実践
- 「自分の声・顔・身振り」で生きることから、社会の民主化へ ⇒ **社会行為主体**としての活動へ

4 社会的行為主体としての活動のあり方 —社会的行為主体とは何か

- 言語の使用者・学習者は「社会的に行動する者・社会的存在」(CEFR2001)→社会的行為主体 (フランス語 *acteur social*, 英語 *social agent*)
- 言語的正解・社会的運用のモデルへの接近や流暢さを目的(個人のコミュニケーション能力向上・育成)≠Co-action (共に行動する, 協働) / 協文化(*co-culturel*)、個人と社会の関係、市民性形成、民主的な社会の形成

4 社会的行為主体としての活動のあり方 —どんな活動なのか

- 社会と個人を結ぶ課題テーマ
- 自分の考えを他者に発信する
- 他者の価値観を受け止める
- 対話による合意形成 細川(1998)参照
- テーマをめぐる正解のない活動
- 教師が答えを持たない／持てないことの意味
- コミュニケーション能力向上は、結果≠目的

4 社会的行為主体としての活動のあり方

- プロジェクト活動の意味

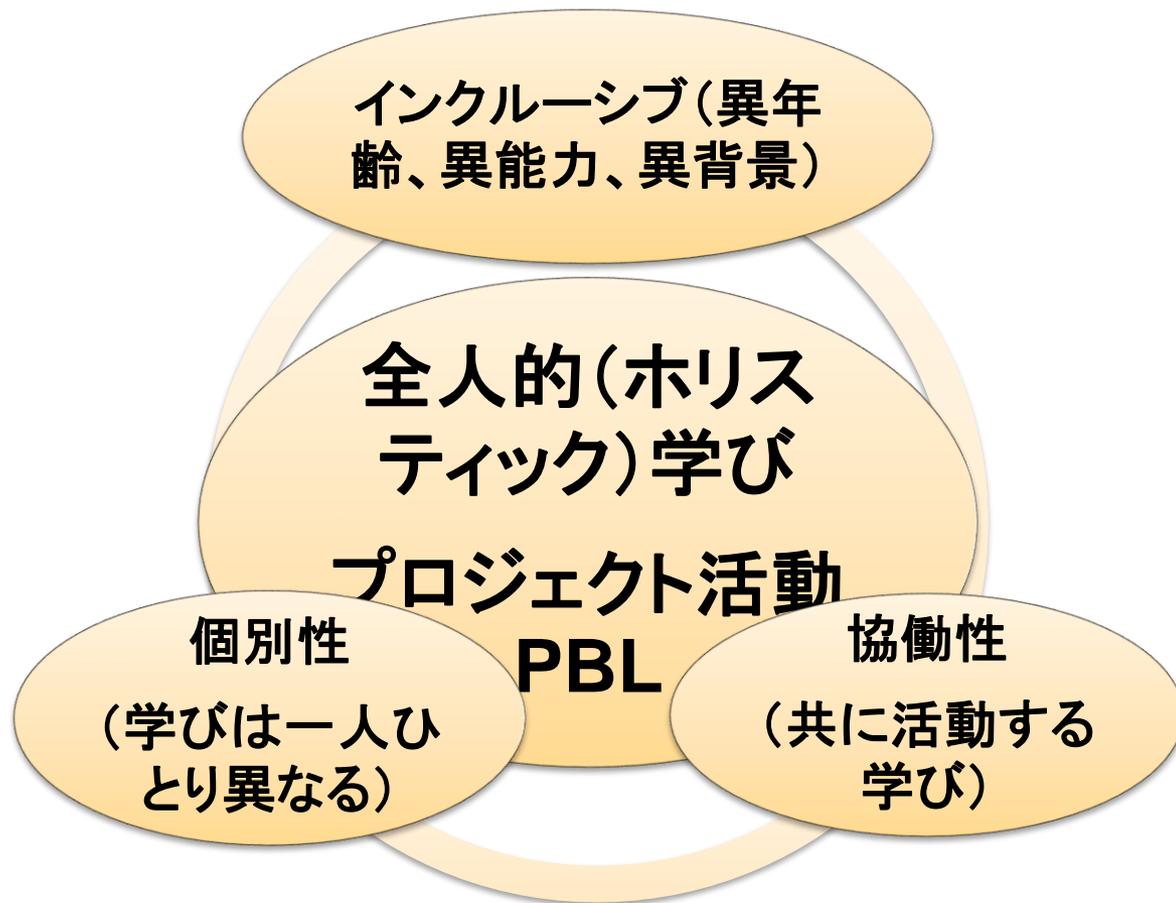
- 個別性(学びは一人ひとり異なる)
- 協働性(共に活動する学び)
- インクルーシブ環境(異年齢、異能力、異背景)
- 全人的(ホリスティック全包括的)学び

- プロジェクト(自分あるいは自分たちで問いを立て、それをテーマとして活動するための母体) — Project Based Learning: PBL

- 正解のない、教えられない活動をどのように組織化するか

4 社会的行為主体としての活動のあり方

-新しい実践のための構想図



4 社会的行為主体としての活動のあり方

- 自己・他者・社会をつなぐ対話のできる個人へ（個人と社会の循環の重要性）
- 「この私」はどう生きるか
 - 他者と共に生きるために何が必要か
 - 「どのような社会をつくるのか」
- 社会参加／政治意識／市民的態度の形成へ
- ことばの市民になる—ことばを使って社会で活動する個人になる／をつくるための発信基地が必要

4 社会的行為主体としての活動のあり方 -学びの構造と展開

想像・創造

どのような社会をつくるのか

思考・対話

考えるための発信基地

情報・知識

必要なものは自分で探す

参考文献

- 古川ちかし(1991)「教室を知ることと変えることー教室の参加者それぞれが自分を知ることと変えることー」『日本語教育』75, 24-36, 日本語教育学会.
- 倉地暁美(1992). 『対話からの異文化理解』勁草書房.
- 田中望(1996)「地域における日本語教育」(『日本語教育・異文化間コミュニケーションー教室・ホームステイ・地域を結ぶものー』北海道大学国際交流センター)
- 細川英雄(1998)『日本語教育と日本事情』明石書店
- 細川英雄(2002)『日本語教育は何をめざすか』明石書店
- 細川英雄(2012)『ことばの市民になる』ココ出版
- 細川・マリオッティ・尾辻(2016)『市民性形成とことばの教育』くろしお出版